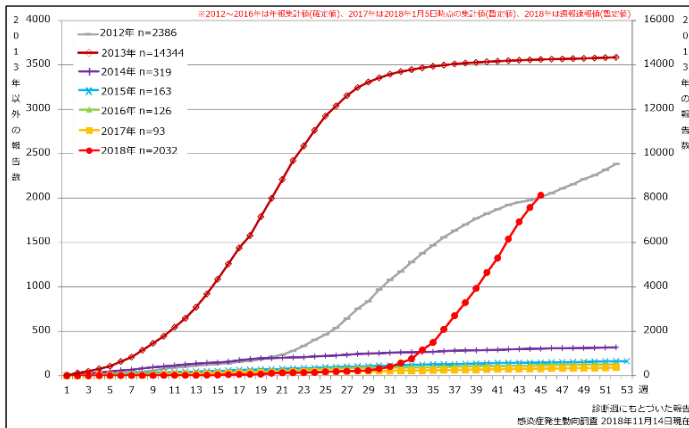


知ってほしい！ 予防したい！ 風疹のお話



2018年愛媛県内では5件の風疹報告がありました。
(第47週時点)

少ないと思った方！安心するのは早いかも。
風疹はインフルエンザよりも感染しやすいんです
全国的に今年は風疹感染者が多いです。
首都圏から徐々に拡大し関西で増加傾向です。
四国も感染者増加の可能性はあるんです！



風疹とは**発熱・発疹・リンパ節の腫れ**を特徴とするウイルス性発疹症です。

風疹は感染者の咳や会話で飛び散る**飛沫感染症**です。

風疹で問題となるのは感染した本人だけの問題ではないということです。

特に**風疹の抗体を持っていない妊娠20週ころまでの妊婦さんが風疹ウイルスに感染すると、
生まれてくる子どもが先天性風疹症候群を発症する可能性がある**ということです。

そこで重要となってくるのが**ワクチン接種**です。男女ともにワクチン接種を受けて
風疹の流行を抑制し、女性は感染予防に必要な免疫を妊娠前に獲得しておくことが重要です。



風疹の3主徴

【**皮疹**】粟粒大の赤い斑点。顔面ではやや大きく融合傾向。

最初は顔面に生じ頸部、体幹、四肢へと急速に拡大し、3日前後で消失する。

【**リンパ節腫脹**】全身、とくに耳の後ろ、後頭部、頸部にみられ、

皮疹出現後数日から存在し1～数週間持続。

【**発熱**】一般に軽度で2～3日で解熱する。

そのほかに口の中に赤い斑点ができたりのどが赤くなったり目が充血したりする症状もみられます。



先天性風疹症候群の妊娠月別での発生頻度

妊娠1か月で50%以上 妊娠2か月で35% 妊娠3か月で18% 妊娠4か月で8%程度

成人でも15%程度は不顕性感染（症状が現れない感染）があるので

母親が無症状でも先天性風疹症候群は発生し得るのです。



先天性風疹症候群の3大症状は先天性心疾患（動脈管開存が多い）、難聴、白内障です。

3大症状以外には、網膜症・肝脾腫・血小板減少・糖尿病・
発育遅滞・精神発達遅滞・小眼球など多岐にわたります。

風疹も先天性風疹症候群もそれ自体の治療法はありません。

先天性風疹症候群は手術が必要になる場合があります。

そのため予防が最も重要となってきます。



予防接種未実施世代は感染要注意！！

【昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性】

【昭和54年4月2日から昭和62年10月1日生まれの男女】

【昭和62年10月2日から平成2年4月1日生まれの男女】



予防接種は時代により体制が変化しており接種をしていなかったり接種していても抗体獲得には不十分であったりする場合があります。そのため上記年代の人は風疹感染に要注意です！！

社会全体が風疹の影響を理解し予防しよう！

風疹は大人だけの問題ではありません。ワクチン接種で予防のできる疾患です。
ご家族さん、ご近所さん、知り合いの方などに風疹の話をするのもいいでしょう。

ワクチン接種したかな？ 風疹かかったことあるかな？

身近に妊婦さんになりそうな人いないかな？ 抗体検査受けに病院行こうかな。

そんな風に意識をもってくれる人が増えることを願います。

生まれてくる子どもたちのために風疹の予防を社会全体で取り組んでいきましょう。



愛媛県内では風疹抗体検査の助成を行っています。

対象者や助成期間、手続きなど詳細は県庁ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.ehime.jp/h25500/huusin/kensajosei260601.html>